

# 令和 7 年度施設関係者評価実施報告書

社会福祉法人宝山寺福祉事業団  
極楽坊あすかこども園

実施日:令和 8 年 3 月 19 日(木)

場所:極楽坊あすかこども園なんでも室

施設関係者評価委員:極楽坊あすかこども園愛護会 会長 児童発達支援いっぽセンター長

施設側参加者:極楽坊あすかこども園 園長・副園長 書記:極楽坊あすかこども園 事務

## 1. 園の教育・保育目標

やさしい心と健やかな身体を育てる。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

保育を必要とする子どもに対する保育並びに満3歳以上の子どもに対する教育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図られるよう、各法令等に則り、養護・教育にわたって一貫性、連続性のある保育実践を行う。また、仏教行事や地域の様々な人たち、園内での異年齢児との交流を通して、信仰心を培うとともに、優しさや感謝、思いやりの心をはぐくむ。

併設の児童発達支援いっぽとの連携、一体的な保育ができることが園の強みとなるよう、保育内容や体制を整える。

(重点項目)

1. 「主体性を育む保育」について、共通理解を図るとともに、行事等を含めた保育のあり方を再検討する。
2. 研修や講習会に積極的に参加し、得られた知識や技術を職員間で共有し、教育・保育の質向上を図る。
3. 家庭や地域との連携を図りながら園児の保護者支援や地域の子育て家庭の支援を行う。
4. ICT の活用など、間接的業務の効率化を図り、保育の更なる充実・保護者の利便性向上・働きやすい職場環境を目指す。

### 3. 評価項目の評価及び委員の意見

評価項目	自己評価	委員の意見
保育・教育目標について	子どもの興味や発達段階に応じた環境構成や関わりを工夫し、安心して主体的に活動できる保育を心がけた。評価結果を次の計画に生かす取り組みも進めているが、記録の活用や職員間での共有には引き続き工夫が必要である。	自己評価を行っている点は評価できるが、全職員が同じ理解に立つことの難しさは共通の課題である。
保育・教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり活動を通じて、異年齢児が関わる機会を大切にされた。</li> <li>・子どもたちの成長や興味関心を踏まえ、柔軟な保育を心がけた。</li> </ul>	家庭では食べない野菜も園では食べており、給食を通してさまざまな食材や季節の野菜に触れられている点が評価できる。
食育	給食や栽培活動を通して、食べることへの興味や感謝の気持ちを育むよう努めた。子どもの食べる姿を丁寧に見取り、声かけや環境設定を工夫した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭では食べない野菜も、園では食べていることが多く、大変ありがたい。</li> <li>・給食を通して季節の食材に触れられることが、良い経験となっている。</li> <li>・幼児用のいすについて、姿勢を正しやすい配慮がされている点が安心できる。</li> </ul>
行事	年齢や発達に応じた行事内容を検討し、日常の保育とのつながりを意識して実施した。近年の猛暑等を踏まえ、行事時期や実施方法の検討が課題である。	運動会などの行事については、暑さの影響も大きく、時期設定が難しいため、今後も慎重な検討が必要である。
経営・組織	職員数に限りがある中で、日常の保育や行事運営が円滑に進むよう、役割分担や会議の持ち方について工夫を行ってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児保育(たてわり活動)により、子ども同士の関わりが豊かになっている点は評価できる。</li> <li>・職員体制や業務分担については、限られた人員の中で工</li> </ul>

	<p>一方で、行事担当と日常業務が重なる時期には業務の偏りが生じることや、有給休暇の取得が難しく感じられる場面もあり、職員の負担軽減や業務配分の見直しが課題として挙げられた。</p> <p>また、職員同士が互いの立場を理解し、協力し合う姿勢は見られるものの、助言や意見交換については十分とはいえず、今後の改善点として認識している。</p>	夫されているが、引き続き無理のない運営が求められる。
情報	<p>園児および保護者に関する個人情報については、書類管理やICT機器の取り扱いに留意し、適切な管理に努めてきた。連絡帳や掲示、ICTを活用し、必要な情報を分かりやすく伝えることを意識している。</p> <p>一方で、情報の伝わり方にばらつきが生じることもあり、発信方法やタイミングについては、今後さらに工夫が必要であると考えている。</p>	特段の意見・指摘なし。
施設・設備	<p>施錠管理や来園者対応など防犯意識を高め、安全な環境づくりに努めた。掲示方法や安全管理については、今後も見直しを進めていく必要がある。</p>	施錠によりすぐ開錠できない場合もあるため、暗証番号方式などの工夫も検討できるのではないかとの意見が出された。
開かれたことも園づくり	<p>園庭開放や子育て相談を行い、保護者が安心して話せる雰囲気づくりに努めたが、参加者が限られる課題も見られた。</p>	知り合い同士であれば参加しやすいが、一人では参加しづらい面もあるとの意見があった。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価および施設関係者評価を通して、保育内容や園運営について客観的に振り返ることができた。  
日々の保育や食育、異年齢児の関わりなど、子どもの育ちにつながる実践が積み重ねられている一方、職員間の共通理解や子育て支援の在り方については、今後も継続した検討が必要である。

## 5. 今後取り組むべき課題

- ・自己評価の結果を保育実践により効果的につなげるため、職員間での共有と理解を深める。
- ・子育て支援事業について、参加しやすい内容や周知方法を工夫する。
- ・気候変動等を踏まえ、行事運営や安全対策、施設管理の見直しを継続する。